

Sat.,Jun.26 2021/ ①12:30~ ②14:40~ ③16:50~18:30 / 1stage ¥3000, 1day ¥7500

KAMO

A priest of Muro Myojin asks a woman and her companion about a white allow enshrined at the Kamo Myojin in Kyoto. They explain that a long time ago, a maiden of the Hata family picked up an arrow from the Kamo River and later gave birth to a son. At the age of three, he indicated the arrow as his father. Since then, the shrine of Kamo Myojin worships him, his mother and the arrow as three gods. Then the woman reveals herself as the Goddess and they disappear. Later the Goddess in her true form and her son, the Thunder God, come and dance to wish the prosperity of the land.

URI NUSUBITO

The farmer is content with ripe melons in his field, and prepares the fence and a scarecrow to protect his melons from birds and animals. Later at night, knowing fine melons there, a man comes and breaks the fence. In the dark, he starts rolling himself around the field to find ripe melons. Before leaving, he knocks down the scarecrow since it scared him first as a watcher. Next day the farmer finds the theft, and waits for the return of the robber, disguising himself as a scarecrow. When the man returns, he shows his interest in the new scarecrow and starts practicing a coming festive play with it until the farmer removes the mask and chases the man off.

SUMIDA GAWA

A woman has been distracted since her only son was kidnapped in the Kyoto area, and comes to the eastern region to look for him. When she gets on a boat to cross the Sumida River, one of travelers on the boat notices people on the other bank chanting loudly. The boatman tells them it is the first anniversary service of a pitiful boy who died there after having been kidnapped and abandoned due to serious illness. She asks the boatman about the boy in detail, and confirms he is her missing son. The woman, with her broken heart, goes to the grave mound and prays for his soul intensely. Then, as if someone is chanting together, a feeble voice comes out from the grave. She tries hard to hold the spirit of her boy in vain.

KUMASAKA

At Akasaka of Mino Province, a traveling priest is asked to hold a mass for someone’s soul by another priest and led to a small Buddhist hut where he finds no Buddha statue but a long handled sword and other arms. At night, the other priest and the hut vanish, and the traveling priest finds himself being under the pine tree. Later in his dream the ghost of Kumasaka no Chohan, a bandit chief, appears. He describes his clan’s last attack and how he was killed by a youngster named Ushiwaka.

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

<主催>

公益社団法人 金春円満井会

komparu-emmaikai

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス

https://www.komparu-enmaikai.com/

加茂 (かも)

晩夏の頃、播磨国（兵庫県南西部）室明神むろのみょうじんの神職一行（ワキ・ワキツレ）は、室明神と御神体を同じくする加茂明神かものみょうじん（京都市左京区下鴨）を参詣しに都へ上った。一行は、川辺に白羽の矢を立てた祭壇を見つけ不審に思っていると、女たち（シテ・ツレ）が水を汲みにやってきたので矢の謂われを訪ねた。女は「昔、この里に秦はだの氏女うじによという女が住んでおり、毎朝夕この川の水を汲んで神に手向けた。

ある時、川上から一本の白羽の矢が流れてきて女の水桶に止まった。持ち帰り家の軒にさしておくと女は程なく懐胎し、男子を産んだ。この子が三歳になった時、「父は誰か?」と尋ねると、子は軒にさしてある白羽の矢を指した。すると矢は忽ち別雷神となり天へ上っていった。この子と母も神となり、白羽の矢で示された別雷神の神と併せ、加茂三所の神と呼ぶのである。」と教えた。その後、女は川辺へ下り手向けの水を汲みながらその清らかさを讃えると、やがて自分が神であることを仄めかし姿を消した。<中入>

その夜、一行の前に末社の神まつしゃ しん（間狂言）が現れ、再び神話を語る。暫くして、御祖神みおやのしん（後ツレ）が天女の姿で出現し、祝福の舞を舞う。続いて別雷神が来臨し、雷雨を呼び起こして恵みの雨を降らせ、猛々しい神威を示す。やがて御祖神ただすは紵の森へと飛び去り、別雷神は虚空へと上がっていった。（真由子）

角田川 (すみだがわ)

武蔵の国と下総の国の境を流れる角田川、その渡守が渡すべき旅人を待っていると何やら多くの人が集まって向かってくる。何事かと尋ねると、女物狂いがやってくるのだと言う。その女は渡守に沖に飛ぶ白い鳥の名を聞き、渡守が沖の鷗と答えると、伊勢物語の「名にしおわば、いざこと問わぬ都鳥、わが思う人はありやなしやと」という在原業平の歌をひいて、角田川の白き鳥ならば都鳥とよぶべきものを、と狂って見せる。

狂女を含む一行が渡し舟に乗り対岸へ向かうと、対岸に大勢人が集まっているのが見える。渡守は、ちょうど一年前に都から人買いにさらわれた子供が弱りここにうち捨てられ、土地の人の看病もむなしく亡くなり、その遺言により都の人の通る道の辺りに塚を築き埋葬したこと、その命日に大念仏をしていることなどを語る。その話を聞く狂女の様子が気にかかり尋ねると、まさしくその狂女こそがなくなった子供の母で我が子を追いかけてはるばる東へ来たことを知る。我が子の死を知り泣き崩れ狂乱する女は渡守に諭され、夜すがら鉦鼓を鳴らし念仏を唱えていると、塚の影から我が子の姿が現れる。東の間の再会を果たしたかに見えたが、それも夜が明けてみると塚に生えた草の影を見間違えたにすぎないのだった。（芳樹）

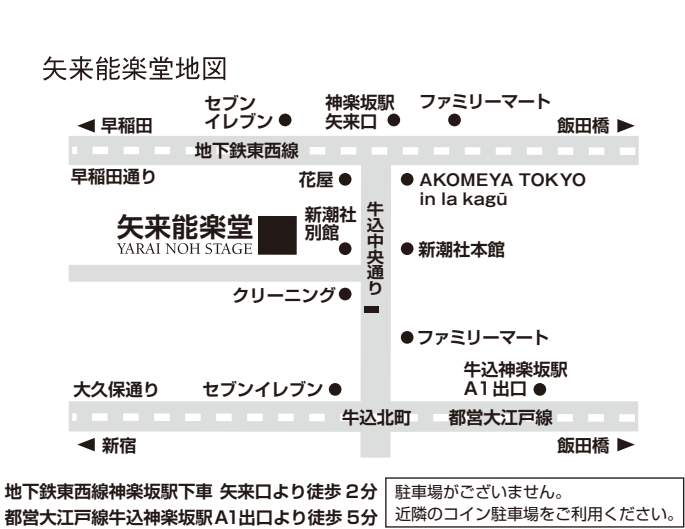
熊坂 (くまさか)

東国行脚を志し旅をする僧が途中、美濃国青野が原に差し掛かかると、「今日はある者の命日なので弔ってほしい」と僧形の者が呼びかけてきた。頼みを受け入れた旅僧が案内された持仏堂へ入ってみると、堂内に仏の絵や像の類は一切無く、あるのは長刀などの兵具ばかりであった。旅僧は驚き理由を問うと、弔いを乞うてきた者は「自分はまだ出家したばかりの身で、この辺りに山賊や夜盗が現われた時には長刀をとって人々を助けるのだ。」と言う。さらに愛染明王が弓を、毘沙門天が鉦を持ち悪魔を降伏する譬えなどを挙げながら仏の方便を語るうちに夜が更け、いざまどろまんとした折節、僧形の者の姿も堂も消え失せて草むらと変わり、気が付くと旅僧の身は独り、一木の松の下にあった。

夜半、旅僧の読経に引かれて現われたのは、盗賊、熊坂長範の亡霊であった。陸奥へ下る金売り吉次を赤坂の宿にて襲った際、吉次に同行していた牛若丸と激しく打ち合い、ついには討たれた有様を見せ、末の世の助けを頼みながら霊は夜明けと共に松陰に姿を消してゆくのであった。

何と云っても後場の長刀を振っての立ち回りが見どころとなる曲ですが、前場の仏の方便を語る詞章なども、世を生きる人の逞しい声を聞くようで面白いものがあります。（由実）

<TYoshikawa/STakahashi>



番組

第一部

開場 十二時 開演 十二時半

仕舞 経 政キリ 中野由佳子

安達 裕香
梅井みつ子
深津 洋子
廣瀬 順子

後ツレ／御祖の神 村岡 聖美
前ツレ／里女
後シテ／別雷の神 柏崎真由子
前シテ／里女

能加茂 ワキ／室の明神の神職 大日方寛

大鼓 亀井 洋佑 太鼓 大川 典良
小鼓 曾和伊喜夫 笛 栗林 祐輔

アイ／末社ノ神 前田 晃一

後見 横山 紳一 地謡 山井 綱雄
安達 裕香 金春 憲和
辻井 八郎 金春 安明
鎌田 氏勝 辻井 八郎

〈終演予定 十四時十分〉

第二部

開場 十四時半 開演 十四時四十分

仕舞 小 塩キリ 辻井 八郎

本田布由樹
山井 綱雄
金春 憲和
中村 昌弘

子方／梅若丸の霊 片野 一郎

シテ／梅若丸の母 本田 芳樹

能角田川 ワキ／渡し守 高井 松男

大鼓 國川 純 笛 槻宅 聡
小鼓 住駒 充彦

後見 横山 紳一 地謡 本田 光洋
林 美佐 中村 昌弘
萩野 将盛

〈終演予定 十六時十五分〉

第三部

開場 十六時四十分 開演 十六時五十分

狂言 瓜盗人 シテ／盗人 三宅 右矩

アド／百姓 三宅 近成

後シテ／熊坂長範の霊

前シテ／僧 岩松 由実

能熊坂 ワキ／旅僧 御厨 誠吾

大鼓 柿原 孝則 太鼓 徳田 宗久
小鼓 飯富 孔明 笛 熊本俊太郎

アイ／里人 金田 弘明

後見 山井 綱雄 地謡 大澤久美子
中野由佳子 森 瑞枝
長谷川純子
村岡 聖美
林 美佐

附祝言

〈終演予定 十八時半〉

コロナウイルス感染対策に、ご協力をお願い申し上げます。

- 体調にご不安のある方、体温三十七度五分以上の方はご来場をお控えください。
- 三部総入替制となります。各部チケットをお求めください。
- 検温、マスク着用、手指の消毒、席を離しての着席、時差退場にご協力ください。
- チケット裏面の連絡先のご記入をお願いいたします。
- 客席の消毒作業のため、各部終了後は荷物をお持ちになりご退場ください。
- 地下喫茶室は閉鎖しております。
- 舞台進行・演出が常とは異なる場合がございます。
- 出演者への面会をご遠慮ください。

令和3年予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

9月25日(土) 巴 中野由佳子 富士太鼓 村岡 聖美 阿漕 本田布由樹

11月20日(土) 小鍛冶 本山 芳樹 玉葛 森 瑞枝 邯鄲 林 美佐

令和4年予定

1月22日(土) 高砂 岩松 由実 東北 井上 貴覚 百万 柏崎真由子

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。

入場料 各部三、〇〇〇円(一括購入に限り全三部七、五〇〇円)

金春円満井会 令和3年 12月5日(日) 安宅 辻井 八郎 三輪三光 金春 穂高